

第2次かづのいきいき スポーツマスタープラン

「第2次鹿角市スポーツ推進計画」

平成 28 年 3 月

鹿角市教育委員会

第2次計画策定にあたって

「スキーと駅伝のまち・鹿角」を掲げ、多くの全国規模大会の開催をはじめ、市民の誰もが生涯を通じて、いつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しみ、楽しめるスポーツ環境づくりと、生涯スポーツによる豊かな地域社会の実現のため、本市の計画的なスポーツ振興を図ることを目的とし、平成19年3月に、第1次となる「鹿角市スポーツ振興基本計画 かづのいきいきスポーツマスタープラン」を策定しました。平成19年度から平成27年度までの9カ年の計画期間中、平成23年3月には平成22年8月の国の「スポーツ立国戦略」の策定と本市「第6次総合計画」との整合を図るため、目標及び施策等の見直しを行いました。さらに、平成23年8月の「スポーツ基本法」の施行と国「スポーツ基本計画」の策定を受け、平成25年3月に、これに合わせた再改定を実施してきたところです。

第2次計画の策定にあたっては、第1次計画における基本目標及び施策等の達成・進捗状況を検証し、計画の理念、基本目標等、基本的な考え方は継承しつつ、個別の施策を追加・修正しております。本計画に基づき「スポーツを核としたまちづくり」を進め、『笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角』を目指すものです。

最後に本計画の策定にあたり、ご尽力いただきましたスポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

鹿角市教育委員会
教育長 畠山 義孝

第2次かづのいきいきスポーツマスタープラン

目次

| | | |
|------|----------------------------|----|
| 第1章 | 計画策定にあたって | |
| 1 | 計画策定の趣旨 | 2 |
| 2 | 第1次計画の達成状況 | 2 |
| 3 | スポーツ推進により目指す地域の姿 | 6 |
| 4 | 鹿角市が目指す将来の都市像 | 6 |
| 5 | 計画の位置づけ | 7 |
| 6 | 推進体制 | 7 |
| 7 | 計画期間 | 7 |
| 8 | 計画の構成 | 8 |
| 9 | 評価体制 | 8 |
| 第2章 | 計画の基本理念 | |
| 1 | スポーツの意義 | 9 |
| 2 | 基本理念 | 9 |
| 3 | 基本目標と施策 | 9 |
| 第3章 | 施策の展開 | |
| | 基本目標1 生涯スポーツの普及推進 | 12 |
| | (1) 生涯スポーツの充実 | |
| | (2) スポーツによる健康づくりの推進 | |
| | (3) スポーツボランティアの育成と活用 | |
| | 基本目標2 スポーツによるまちづくりの推進 | 17 |
| | (1) 「スキーのまち鹿角」の推進 | |
| | (2) 「駅伝のまち鹿角」の推進 | |
| | (3) スポーツ拠点づくりの推進 | |
| | (4) 子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実 | |
| | 基本目標3 指導体制の確立と指導者の育成 | 21 |
| | (1) スポーツ関係団体の組織強化と活動の充実 | |
| | (2) 指導者の育成と活用 | |
| | 基本目標4 スポーツ施設の利用促進と整備 | 23 |
| | (1) スポーツ施設の利用促進 | |
| | (2) スポーツ施設の整備・充実 | |
| 参考資料 | | |
| | 成果指標と目標値一覧 | 25 |

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

近年、少子高齢化や情報社会の進展による生活様式の変化、科学技術の高度化やグローバル化に伴った国際協力、交流の活発化など、我が国を取り巻く社会環境や価値観は急激に変化しています。

一方、科学技術の高度化や情報化の進展により、人間関係の希薄化や精神的なストレスの増大、体を動かす機会の減少などによる心身両面にわたる健康上の問題が取り上げられるようになってきました。

少子・高齢化社会においては、生涯にわたり健康で明るく、活力ある生活を送ることが、個々の幸福にとどまらず、社会全体の活力維持のためにも強く求められています。

こうした中、平成23年の「スポーツ基本法」制定と「スポーツ基本計画」の策定に合わせ、平成25年に本市第1次計画を改定し、基本目標の達成のため施策を展開してきたところです。

第1次計画における基本目標及び施策の達成状況を確認し、本市におけるスポーツの推進の基本理念や基本目標達成のための進めるべき施策を明らかにし、地域をあげてスポーツを推進していくため、本計画を策定するものです。

2 第1次計画の達成状況

第1次計画においては、基本理念「生涯スポーツで豊かな地域社会の実現」に向けて、基本目標4項目と、これに基づく施策12項目を計画的かつ総合的に進めてきました。

(基本目標1) 生涯スポーツの普及推進

(施策1-1) 生涯各期におけるスポーツ活動の充実

| 成果指標 | 基準値 (H21実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|---------------------------|----------------|--------------|-----|
| 週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 | 33% | 47% | 58% |

※ 実績値は、「平成27年度市民アンケート」の結果

日常的なスポーツ活動を促すためのきっかけづくりとして、生活活動動作が健康づくりと密接な係わりがあるとの意識を醸成するため、市広報やスポーツイベントを通して啓発に努めてきたところ、平成25年度から実施率が50%を超え、平成27年度の目標値である47%を上回っています。しかしながら、40歳代の働き盛り世代の実施率が40%台と低く、世代間に格差がある状況となっています。

(施策1-2) 総合型地域スポーツクラブの育成支援

| 成果指標 | 基準値 (H22実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|---------------|----------------|--------------|------|
| 総合型スポーツクラブ設立数 | 2クラブ | 3クラブ | 3クラブ |

※ 実績値は、平成27年12月31日現在の設立数

平成20年「NPO鹿角くらすた」、平成22年「NPO法人鹿角ウィンプルススポーツクラブ」、平成24年「十和田スポーツクラブ」が、それぞれ活動を開始し、引き続きこの3クラブが活動を行っています。生涯各期にわたるスポーツの推進に期待が寄せられる一方、一部のクラブにおいては自主財源の不足等、運営が厳しくなっている現状も見られます。

(施策1-3) スポーツによる健康づくりの推進

| 成果指標 | 基準値 (H21実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|---------------|----------------|--------------|---------|
| スポーツイベントの参加者数 | 20,625人 | 25,000人 | 26,427人 |

※ 実績値は、平成26年度に実施した①チャレンジデー(24,264人)②タートルマラソン(314人)③スノーフェスティバル(1,231人)④長縄跳び大会(152人)⑤わくわくウォーキング(466人)の合計値。

チャレンジデー、タートルマラソン等市主催事業を継続的に実施することにより、イベントが市民に浸透し、参加者数の増に繋げることができたと考えられます。今後も事業を継続し、スポーツの実施による健康増進の啓発を進める必要があります。また、市体育協会、総合型スポーツクラブなどスポーツ関係団体との連携を強化し、スポーツによる健康づくりの意識醸成をさらに進める必要があります。

(基本目標2) スポーツによるまちづくりの推進

(施策2-1) 「スキーのまち鹿角」の推進

| 成果指標 | 基準値 (H21実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|--------------|----------------|--------------|------|
| スキークーポン券利用枚数 | — | 1,800枚 | 516枚 |

※ 実績値は、平成26年度の利用枚数。

成果指標は、平成22年度から児童のリフト代またはスキーレンタル代を負担し、スキー人口の底辺拡大を目的に実施したスキークーポン券発行事業における利用枚数です。市内小学生全員を対象に1人2枚とし、3,000枚弱を発行してきました。各年度の実績にばらつきはあるものの、実績値は発行枚数の17%程度にとどまり、今後の施策について検討が必要です。

平成24年度より実施しているスキー・駅伝選手育成強化対策事業では、小中高生の当該スポーツに係る合宿を支援し、世界大会や全国大会で活躍する選手を輩出しており、大きな成果を上げています。

また、スキー競技については、国体・インカレ・インターハイを本市花輪スキー場で開催しており、スキーのまち鹿角を全国にPRできました。

(施策2-2) 「駅伝のまち鹿角」の推進

| 成果指標 | 基準値 (H22実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|--------------------|----------------|--------------|-------|
| 浅利純子杯駅伝、十八駅伝参加チーム数 | 81チーム | 90チーム | 97チーム |

※ 実績値は、平成27年度に参加した①浅利純子杯(70チーム)②十八駅伝(27チーム)の合計。

浅利純子杯駅伝、十和田八幡平駅伝をはじめ、市内各地区駅伝大会の開催などを通じ、市内外に「駅伝のまち鹿角」をPRでき、意識醸成が図られているものと思われます。しかしながら、競技レベルにおいては、県内トップクラスではあるものの、数少ない選手でチーム編成している現状から、選手の強化はもちろん、選手の確保・育成が大きな課題となっております。

(施策2-3) スポーツ拠点づくり事業の推進

| 成果指標 | 基準値 (H21実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|--------------------|----------------|--------------|------|
| サマーノルディックスキー大会参加者数 | 377人 | 420人 | 409人 |

※ 実績値は、平成27年度の参加選手数(実数)。

平成19年度より実施している、サマーノルディックスキー大会では、年々参加者数が増加

傾向にあり、夏季におけるノルディック競技の聖地としての地位を確立しつつあるものと考えられます。今後も大会を継続して開催しながら、施設の魅力の発信・PR に努めるとともに、全国各地の同様の大会との連携を図るなど、一歩進んだ取り組みが必要です。

(施策2-4) 子どもたちの夢と希望を育む機会の充実

| 成果指標 | 基準値 (H22実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|-----------------|----------------|--------------|--------|
| スポーツ教室、講演会等参加者数 | 5,739人 | 6,500人 | 1,255人 |

※ 実績値は、平成27年度における①ジュニアクリニック(陸上45人・ローラースキー40人・クロスカントリー35人)②楽天野球教室(72人)③夢の教室(510人)④市体協ジュニア教室5種目(553人)の参加者数の合計。

継続して実施している、スキー・陸上競技「ジュニアクリニック」、平成22年、城山野球場が東北楽天イーグルスの指定球場になったことに伴い実施している「楽天野球教室」、日本サッカー協会との連携により実施している「夢の教室」など、全国代表選手・プロ選手による講座・教室の実施は、市内の子どもたちに大きな影響を与えたものと思われます。

特にスキー競技においては、世界・全国で活躍する選手も輩出しており、一定の成果を上げています。

(基本目標3) 指導体制の確立と指導者の育成

(施策3-1) スポーツ関係団体の組織強化と活動の充実

| 成果指標 | 基準値 (H22実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|-------------|----------------|--------------|------|
| 市体育協会の加盟団体数 | 22団体 | 25団体 | 20団体 |

※ 実績値は、平成27年度における実績値。

競技スポーツの向上を目指す選手育成の観点から一貫した指導体制が重要であり、市体育協会を中心とするスポーツ関係団体の連携を進める必要があります。成果指標とした「加盟団体数」は減少したものの、市体育協会のNPO法人化など組織体制の強化は、本市内におけるスポーツ団体及び指導者連携のプラットフォーム機能の強化に繋がり、ひいては指導者育成基盤強化につながるものと評価できます。指導体制・指導者の充実に向け、引き続き、市体育協会を中心とする組織基盤の強化が必要です。

また、地域における生涯スポーツの指導者として位置づけられる市スポーツ推進委員についても、市体育協会との連携により活動を進めることで、より効果的な生涯スポーツの普及に繋がるものと考えられます。

(施策3-2) 指導者の発掘と指導者登録制度の導入

| 成果指標 | 基準値 (H22実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|---------|----------------|--------------|------|
| 指導者登録者数 | — | 50人 | 195人 |

※ 実績値は、平成27年度鹿角市スポーツ少年団本部における指導者登録・更新人数。

指導者登録制度の実施については、市スポーツ少年団本部における指導者登録制度が機能しており、地域のスポーツリーダーとしての活躍も期待されます。市体育協会のもとに競技スポーツ・生涯スポーツともに多様化する市民ニーズに対応できる指導者を発掘・育成する必要があります。また、スポーツ少年団の登録制度においても、平成29年度の社会体育化に向けその充実を早急に図る必要があります。

(施策 3-3) 指導者の資質向上と指導者研修の充実

| 成果指標 | 基準値 (H22 実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|--------------|-----------------|--------------|-------|
| 指導者養成研修会参加者数 | 211 人 | 300 人 | 106 人 |

※ 実績値は、平成 27 年度に市スポーツ少年団本部所属登録指導者が受講した①指導者認定講習 (48 人) ②養成講習 (58 人) の延べ人数

平成 26 年度からスポーツ少年団における指導者を養成するため、補助制度を実施してきました。今後も引き続き、指導者の充実・確保に向けた施策が必要です。

(基本目標 4) スポーツ施設の利用促進と整備

| 成果指標 | 基準値 (H21 実績) | 目標値 (H27) | 実績値 |
|------------|-----------------|--------------|-----------|
| スポーツ施設利用者数 | 178,332 人 | 200,000 人 | 258,380 人 |

※ 実績値は、平成 26 年度におけるスポーツ振興課所管全施設、総合運動公園及び市民センター所管のスポーツ施設 (十和田体育館・大湯体育館・大湯運動広場・かなやまアリーナ・八幡平体育館・湯瀬体育館・八幡平運動広場) の利用者数の合計 (引用「事務報告」)

(施策 4-1) スポーツ施設の有効活用

スポーツ施設の利用者数は年々増加傾向にあり、これは大会等の誘致、主催大会・イベントの増加が主要因と考えられます。引き続き、大会・イベントの実施により、市外からの利用促進を図ります。

学校体育施設の活用については、平成 29 年度「スポーツ少年団社会体育化完全実施」にむけ、早急に協議を進める必要があります。

(施策 4-2) スポーツ施設の整備充実

各スポーツ施設が有する機能について、引き続き指定管理者等施設管理者と連携しながら、維持充実を図る必要があります。

また、毛馬内市民プール・谷内市民プール等著しく老朽化が進んだ施設は、市民ニーズも考慮しながら統廃合も検討しなければなりません。

3 スポーツ推進により目指す地域の姿

この計画では、次のとおりまちの将来像を展望します。

《 親しむ 》

- ・子どもたちは、友達とスポーツをしたり、遊んだりしています。
- ・地域では、多くの市民が様々なスポーツで汗を流しています。
- ・高齢者や障がいのある人も、地域の仲間と一緒に、またボランティアのサポートを受けながら運動やスポーツを楽しんでいます。

《 にぎわう 》

- ・東山スポーツレクリエーションエリアをはじめとして、市内のスポーツ施設はいつも多くの利用者でにぎわっています。
- ・冬季には数々のスキー大会、夏季には全国規模のローラースキー大会や駅伝大会など、四季を通じて「スキーと駅伝のまち」ならではの大会が開催され、多くの人が応援しています。

《 ささえる 》

- ・様々なスポーツ団体が活発に活動し、市民のスポーツ活動を支えています。
- ・スポーツ指導者やボランティアなど多彩な人材が市民のスポーツ活動を指導、支援しています。
- ・市民は、施設やイベントなど様々なスポーツ情報をいつでも知ることができます。

4 鹿角市が目指す将来の都市像

第6次鹿角市総合計画において掲げる、まちづくりの基本理念、将来都市像、基本目標は、次のとおりです。

〈基本理念〉 共働のまちづくり

〈将来都市像〉 笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角

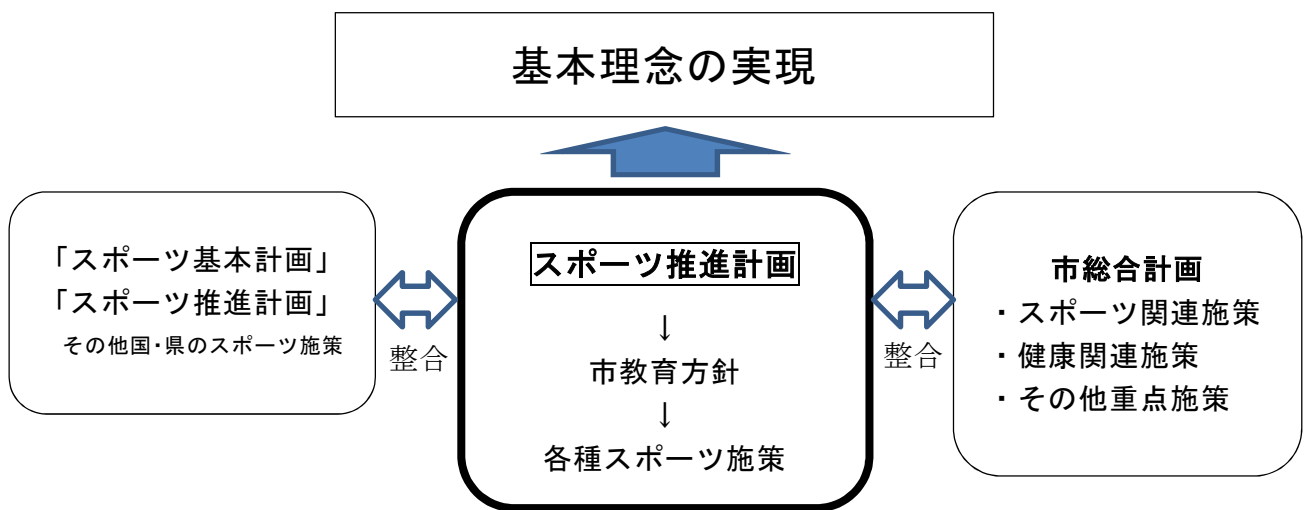
〈基本目標〉

- 活力や賑わいを生むまちづくり
- 誰もが生き生きと暮らせるまちづくり
- 安心して住み続けられるまちづくり
- 豊かな心と文化を育むまちづくり
- 参加と連携を促進するまちづくり

スポーツに関しては、「豊かな心と文化を育むまちづくり」の中で、「市民がスポーツに親しむことのできる環境を整えるとともに、『スキーと駅伝のまち』を掲げたスポーツのまちづくりを進めます。」としています。

5 計画の位置づけ

- (1) この計画は、本市のスポーツ推進に関する基本的・総合的な計画です。
- (2) この計画は、第6次鹿角市総合計画後期基本計画のスポーツに関する施策「スポーツの推進」の基本的な内容を示しています。
- (3) 「共働のまちづくり」の理念にのっとり、市民が一人一人の能力や関心に応じて、「する」、「みる」、「ささえる」など、何らかの方法でスポーツにかかわることを求めるものです。
- (4) 計画の実施にあたっては、国の「スポーツ基本計画」や「秋田県スポーツ推進計画～『スポーツ立県あきた』推進プラン～」が示す施策との整合性を保ちつつ、スポーツ関係団体等との連携を図りながら推進するものです。



図：スポーツ推進計画の体系

6 推進体制

本計画の推進にあたっては、教育委員会と、市の関係部局が中心となって推進します。また、市体育協会をはじめとする、スポーツ関係団体や国・県・他市町村とも連携し、効果が得られるようにします。

7 計画期間

計画期間は、平成28年度（2016年度）を初年度とし、平成32年度（2021年度）までの5年間とします。

8 計画の構成

この計画は、基本理念、施策の展開の二部で構成します。

基本理念では、スポーツの一般的な意義、基本理念、基本目標と施策について述べます。

また、施策の展開では、「生涯スポーツの普及推進」、「スポーツによるまちづくりの推進」、「指導体制の確立と指導者の育成」、「スポーツ施設の利用促進と整備」の4つの基本目標を達成するため、施策ごとに、それぞれの現状と課題を踏まえて、成果指標と目標値を設定し、取り組むべき事項について示します。

9 評価体制

本計画に掲げる施策は、進捗状況を毎年度把握し、スポーツ推進審議会へ報告を行い、助言等を経て次年度の取り組みに反映させることとします。

本計画に掲げる取り組み成果を点検するため、施策ごとに「成果指標と目標値」を設定します。また、目標値は本計画の最終年度である平成32年度を目標として設定します。

第2章 計画の基本理念

1 スポーツの意義

スポーツは、体を動かすことにより、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらし、さらには体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に大きな役割を果たしています。

特に、高齢化の進展や生活様式の変化により、市民の体を動かす機会の減少が予想されるこれからの社会においては、生涯にわたりスポーツに親しむことができる豊かな「スポーツライフ」を送ることは極めて重要です。

また、スポーツには、人間の可能性を追究するという意義もあり、競技スポーツに打ち込む競技者のひたむきな姿は、市民のスポーツへの関心を高め、夢や感動を与えるなど、活力ある健全な社会の形成にも貢献します。

さらに、スポーツは青少年の健全育成に大きな影響力をもち、スポーツを通して市民が交流を深めていくことは、地域の一体感や連帯感を生み、地域社会の活性化にもつながります。

このように、スポーツには多様な意義があり、市民一人一人が自らスポーツを行うことにより、心身ともに健康で活力ある生活を送ることが求められています。

スポーツとのかかわりについては、スポーツを自ら行うほか、スポーツ観戦やスポーツ活動を支援するというかかわり方もあります。

いずれのかかわり方でも、市民自らがスポーツにかかわることは、スポーツ推進の面だけでなく、うるおいやゆとりある生活を送るために重要なものとなります。

2 基本理念

市民一人一人が自らスポーツに親しみ、スポーツを通じて心身ともに幸福で豊かな生活を営むことができる社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かした、活力に満ちた地域社会をめざし、市民ぐるみの取り組みを展開していくことが求められています。

このようなことから、鹿角市スポーツ推進計画の基本理念を、「生涯スポーツで豊かな地域社会の実現」とし、第6次鹿角市総合計画に掲げる「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」の実現を目指します。

3 基本目標と施策

基本理念「生涯スポーツで豊かな地域社会の実現」に向けて、次の4つの基本目標に基づいて、11の施策を計画的かつ総合的に進めます。

基本目標1 生涯スポーツの普及推進

誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、次の施策を推進します。

- (1) 生涯スポーツの普及推進
- (2) スポーツによる健康づくりの推進
- (3) スポーツボランティアの育成と活用

基本目標 2 スポーツによるまちづくりの推進

特色あるスポーツの推進を目指すため、本市のスポーツ環境を活かし、活力あるまちづくりに取り組みます。

- (1) 「スキーのまち鹿角」の推進
- (2) 「駅伝のまち鹿角」の推進
- (3) スポーツ拠点づくりの推進
- (4) 子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実

基本目標 3 指導体制の確立と指導者の育成

生涯スポーツや競技スポーツに取り組む市民のニーズに対応するため、指導体制の確立と指導者の育成を図ります。

- (1) スポーツ関係団体の組織強化と活動の充実
- (2) 指導者の育成と活用

基本目標 4 スポーツ施設の利用促進と整備

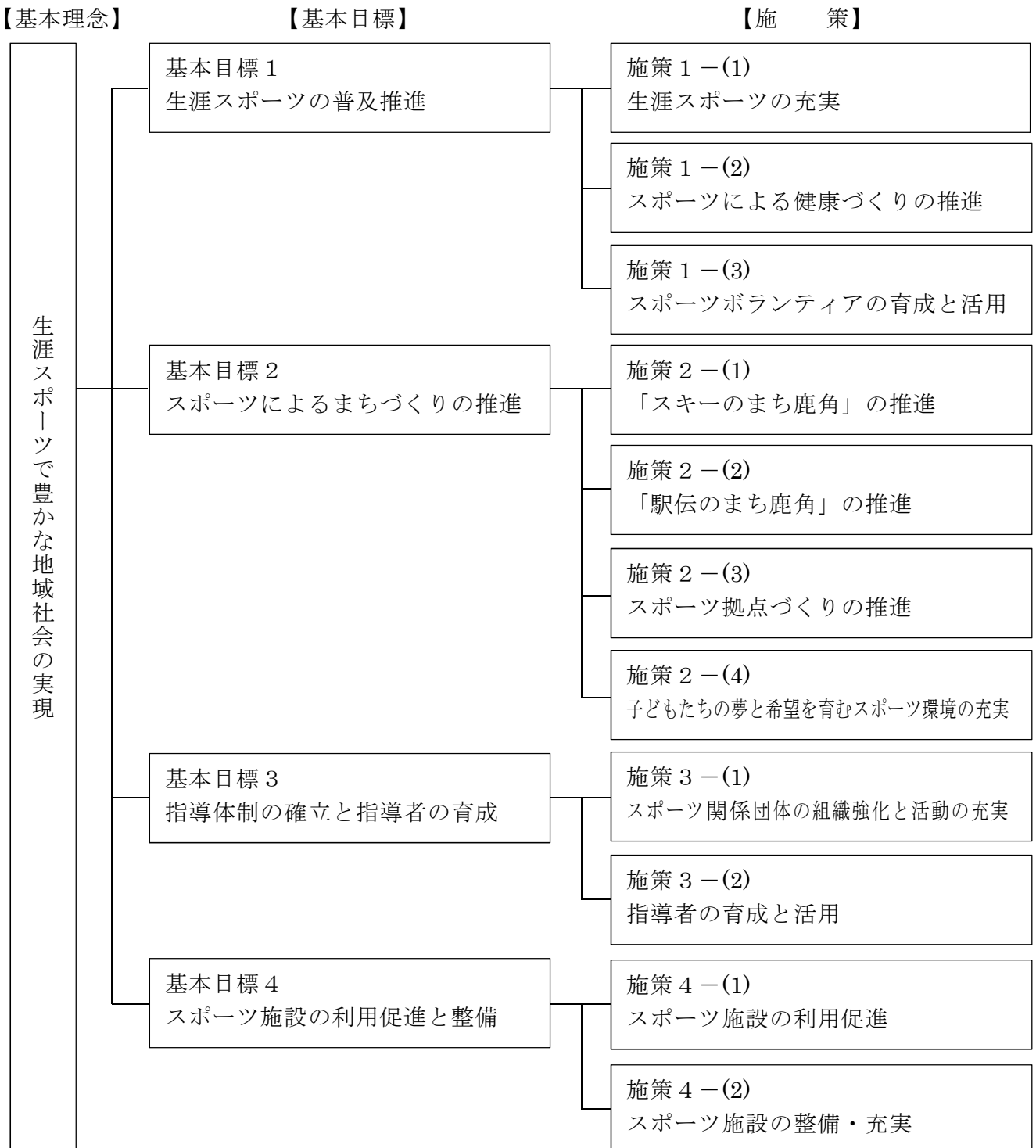
生涯スポーツの推進と競技力向上のため、スポーツ施設の利用促進を図るとともに、計画的な整備を進めます。

- (1) スポーツ施設の利用促進
- (2) スポーツ施設の整備・充実

第3章 施策の展開

本計画では、「生涯スポーツの普及推進」、「スポーツによるまちづくりの推進」、「指導体制の確立と指導者の育成」、「スポーツ施設の利用促進と整備」の4つの基本目標に基づき、それぞれの施策ごとに、現状と課題を踏まえて成果指標と目標値及び具体的取り組むべき事項を示し、基本理念の実現を目指します。

《施策の展開》



基本目標 1 生涯スポーツの普及推進

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を目指します。

(1) 生涯スポーツの充実

《現状と課題》

①ジュニアスポーツ

全国的な傾向である子どもたちのスポーツ離れは本市においても同じことがいえます。運動する子としない子の二極化、体力の低下など、子どもたちのスポーツ離れによる問題が深刻となっています。

子どもたちのスポーツ離れを食い止めるため、「遊び」を含めた日常生活の様々な場面において、身体を動かすことの楽しさを味わう経験を通して、運動やスポーツが好きな子どもを育てなければなりません。

このため、幼児期から小学校低学年の子どもたちの外遊びや運動の楽しさを広める機会を確保することが重要となります。

②学校就学期におけるスポーツ

学校就学期におけるスポーツ活動は、少子化による児童生徒の減少や指導者不足のため、種目によってはチームが編成できない、十分な指導ができないなどの状況にあります。

児童生徒が望んだスポーツに取り組めるよう、学校・家庭・地域との連携によりスポーツ少年団活動を充実させ、多様な競技を選択できる環境の整備が必要です。そのため、市体育協会、市スポーツ少年団本部等がその基盤となるよう支援を行う必要があります。

③子育て世代のスポーツ

子育て世代は、仕事や家事、育児のため忙しく、スポーツに取り組みたくてもできない状況にあります。子育て期の親が、仕事と家事、育児を両立させ、ゆとりある豊かなライフスタイルを構築することは、子どもと親の健康を維持増進させるばかりでなく、少子化に歯止めをかけることにもつながります。

そのためにも、親と子のスポーツ活動の充実を図るとともに、子育て世代のスポーツ環境の整備が必要となります。

④青・壮年期におけるスポーツ

仕事が生活の中心となっている 30 代から 50 代にかけての青・壮年期においては、スポーツに取り組む機会を見出すことができていない現状にあり、スポーツ実施率の低迷が浮き彫りになっています。また、余暇の過ごし方の多様化から、スポーツに取り組まない人もいます。

生活習慣病が話題となっている昨今、働く世代のスポーツ実施率の向上は本市においても重要な課題です。

休日や退社後のスポーツ活動の推進を図るとともに、職場内で福利厚生としてスポーツや運動ができる環境づくりを進める必要があります。また、スポーツは「する」だけでなく観て楽しむこともできます。「みる」ことは誰でも気軽に取り組めるため、スポーツへの関心や意欲を高める機会として、本市で開催されている全国規模大会やスポーツイベントの情報提供を行う

ことが必要です。また、大会やスポーツイベントに参加する機会を創出し、スポーツを「ささえる」活動を気軽に楽しめる仕組みづくりを推進する必要があります。

⑤高齢者のスポーツ

本市の高齢化率は36%を超え、老人医療費や介護保険料の増大など、高齢者の健康問題が取り上げられるようになってきました。また、高齢者のスポーツ実施率は全体的には高いものの、まったくスポーツをしない人もいます。

一人一人が生きがいをもって生活するまちづくりを進めていくためには、高齢者自らが健康とスポーツの関係を意識し、進んでスポーツに親しむ習慣を身につけることが必要となります。保健・福祉部門と連携し、高齢者スポーツや介護予防等の情報を提供することで、地域におけるスポーツ活動への積極的な参加を促すなど、高齢者スポーツ活動の啓発が課題となります。

⑥障がい者スポーツ

障がいのある人にとって、スポーツは心身の健康増進はもとより、社会参加を促すうえでも重要です。近年はリハビリテーション的なニュースポーツも普及しつつあり、障がい者スポーツの社会的な認知と理解が深まっています。

スポーツに親しみ、いつまでも心身ともに充実した健康で明るい生活が送れるよう、進んで参加できるスポーツイベントを開催するとともに、障がいのある人の活動を支援するボランティアや指導者の養成と確保が必要です。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値 (H27 年度) | 目標値 (H32 年度) |
|---------------------------|--------------|--------------|
| 週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 | 58.1 % | 65.0 % |

※ 基準値は、「平成27年度市民アンケート」の結果

《施策の展開》

生涯各期におけるスポーツ活動の充実を図るために、①ジュニアスポーツ活動、②学校就学期におけるスポーツ活動、③子育て世代のスポーツ活動、④青・壮年期におけるスポーツ活動、⑤高齢者のスポーツ活動、⑥障がいのある人のスポーツ活動を推進します。

| |
|---|
| 1 生涯スポーツの普及推進 |
| (1) 生涯スポーツの充実 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会との連携によるスポーツ活動基盤の強化と事業の実施 ・総合型スポーツクラブと連携した事業の実施 |
| ①ジュニアスポーツ活動の充実 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ少年団本部・市スポーツ推進委員・児童センター等との連携によるジュニアスポーツの普及 ・スポーツ関係団体と連携した指導者情報の提供 |

| |
|--|
| <p>②学校就学期におけるスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ少年団本部の運営支援による単位団の活動基盤の強化 ・スポーツ少年団単位団の形成・活動支援 ・一貫指導体制調査研究（小中高等学校間の連携強化による競技力の向上） |
| <p>③子育て世代のスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子スポーツ教室や親子スポーツレクリエーションの実施 ・スポーツ活動の普及啓発とスポーツ環境の提供、PR ・託児ボランティアのPRと活用促進 |
| <p>④青・壮年期におけるスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場におけるスポーツ活動の普及啓発 ・職場へのスポーツ指導者情報の提供 ・余暇時間におけるスポーツ活動の普及啓発 |
| <p>⑤高齢者のスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のスポーツ活動の普及啓発と参加促進 ・関係機関との連携による介護予防の推進 |
| <p>⑥障がいのある人のスポーツ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が参加できるスポーツイベントの開催 ・障がい者スポーツの調査研究 |

（２）スポーツによる健康づくりの推進

《現状と課題》

市民の健康に対する意識は上昇傾向にあります。スポーツの心身にわたる健康保持増進の効果が充分浸透していないことや余暇の過ごし方の多様化から、スポーツによる健康づくりが進んでいるとはいえない状況にあります。

また、日常作業等により体を動かしているのに、さらにスポーツをする必要がないという考えの人もいます。30・40歳代を筆頭に働き盛りの世代には、仕事を中心とした生活でスポーツにかかわれないという人もいます。スポーツを幅広く捉え、競技種目だけにとどまらず、ウォーキングやジョギング、レクリエーションや幼児との遊びなど、レベルや内容にかかわらず、「運動」自体が健康づくりにつながる、という意識の醸成が必要といえます。

市民の誰もが健やかで生き生きとした生活を送るためには、心身とも健康であることが必要であり、スポーツによる健康づくりを推進することが求められています。

このようなことから、スポーツが健康づくりに果たす役割、効果についての情報の提供と誰もが気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベント等を開催し、スポーツに参加する機会の充実に努める必要があります。また、いつでも、どこでも、誰にでもできる運動メニューの開発も必要となっています。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値（H27年度） | 目標値（H32年度） |
|------------|------------|------------|
| チャレンジデー参加率 | 68% | 75% |

※ 基準値は、平成27年度に実施した「チャレンジデー」の参加率

《施策の展開》

スポーツによる健康づくりに対する意識の醸成のため、関係機関と協力しながら、広報等を活用し、定期的な啓蒙活動を推進します。また、誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催やスポーツ推進委員の活動を通して、市民の運動実施率の向上を促します。さらには、この取り組みが地域コミュニティの健全な発展にも繋がるとの視点をもって取り組みます。

| |
|---|
| 1 生涯スポーツの普及推進 |
| (2) スポーツによる健康づくりの推進 |
| ① スポーツによる健康づくりに対する意識の醸成 |
| ・ 市体育協会、市スポーツ推進委員、総合型スポーツクラブ等と連携した啓発活動の推進 |
| ・ 広報等による健康づくり情報の発信 |
| ② 健康づくり事業の推進 |
| ・ チャレンジデー、タートルマラソン等イベントの開催 |
| ・ かづので健康わくわくウォーキングの取組強化 |
| ・ 市民運動会の取組強化 |
| ・ スポーツ推進委員の健康づくり事業への派遣 |

(3) スポーツボランティアの育成と活用

《現状と課題》

本市には恵まれたスポーツ環境があり、冬季には数々のスキー大会、夏季には駅伝大会やジャンプ・ローラースキー大会など年間を通して数多くの全国大会を開催してきました。

開催にあたっては、市体育協会、競技団体等と連携しながら役員の確保を図ってきましたが、現在の社会情勢などから、必要な人員を確保することが困難となっています。

そこで、「する」スポーツ・「みる」スポーツと同様に、スポーツを「ささえる」スポーツボランティアが求められています。本市の目指す「スキーと駅伝のまち」の実現に向けて、スポーツ大会・イベントの運営をサポートするボランティアの育成と活用、さらにボランティアが活動しやすい環境を整える必要があります。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値 (H27 年度) | 目標値 (H32 年度) |
|-----------------|--------------|--------------|
| スポーツボランティアの登録者数 | — | 50 人 |

《施策の展開》

スポーツボランティア団体の育成と活用に努めるとともに、登録制度について検討します。また、スポーツボランティアと事業者の社会貢献活動（CSR）等について啓発を行います。

| |
|---|
| 1 生涯スポーツの普及推進 |
| (3) スポーツボランティアの育成と活用 |
| ①ボランティアの育成 <ul style="list-style-type: none">・ボランティア登録制度の検討・ボランティア養成講習会の開催 |
| ②ボランティア活動環境の整備 <ul style="list-style-type: none">・スポーツボランティアによる社会貢献活動（CSR）の啓蒙普及 |

基本目標2 スポーツによるまちづくりの推進

本市には恵まれたスキー環境があります。また、十和田八幡平駅伝競走全国大会、町廻り駅伝など、古くから駅伝競走に取り組んできています。この恵まれた環境と伝統を大切に「スキーのまち鹿角・駅伝のまち鹿角」を目指したスポーツの推進に取り組みます。

(1) 「スキーのまち鹿角」の推進

《現状と課題》

本市には、全国規模のスキー大会を数多く実施している花輪スキー場をはじめとして、水晶山スキー場、秋田八幡平スキー場の3つのスキー場があります。毎年行われている各種スキー大会では、地元選手の活躍が大きく取り上げられ、市民に大きな感動を与えています。

しかしながら、学校におけるスキー授業の削減や経済的理由等によるスキー人口の減少は、スキーに親しむ子どもたちの減少につながっています。

本市の特色を活かしたまちづくりを進める上でも、恵まれたスキー環境を活かし、「スキーのまち鹿角」に向けた施策を計画的、継続的に進めていく必要があります。

スポーツ少年団・競技団体等の活動の充実を通じ、小学生から高校生までの一貫した指導体制を確立し、継続的にトップレベルの選手を育成する仕組みづくりが必要です。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値 (H27 年度) | 目標値 (H32 年度) |
|-------------------|--------------|--------------|
| 共通シーズン券購入補助制度利用人数 | 64 人 | 80 人 |

※ 基準値は、平成 27 年度における利用人数

(2) 「駅伝のまち鹿角」の推進

《現状と課題》

市内を縦走する十和田八幡平駅伝競走全国大会や、市内各地区で開催されている花輪町廻り駅伝競走大会、十和田地区駅伝大会、八幡平地区駅伝大会などは、50年以上の歴史をもっています。

また、本市出身で世界選手権女子マラソン優勝などの数々の輝かしい記録をもつ浅利純子さんを讃え、平成 19 年からは小中学生を対象とした浅利純子杯争奪鹿角駅伝を開催しています。

これらの駅伝大会を通じて、青少年の競技力の向上が図られるとともに、市内外の選手の活躍により市民に感動を与え、スポーツへの関心が高められています。

本市の特色を活かしたまちづくりを進める上でも、伝統を受け継ぎつつ進める「駅伝のまち鹿角」に向けた施策を計画的、継続的に推進していく必要があります。

スポーツ少年団・競技団体等の活動の充実を通じ、小学生から高校生までの一貫した指導体制を確立し、継続的にトップレベルの選手を育成する仕組みづくりが必要です。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値 (H27 年度) | 目標値 (H32 年度) |
|-----------------------|--------------|--------------|
| 浅利純子杯駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 | 102 チーム | 120 チーム |

※ 基準値は、平成 27 年度に実施した大会のエントリーチーム数

(3) スポーツ拠点づくりの推進

《現状と課題》

本市は、平成 19 年より国のスポーツ拠点づくり推進事業の認定を受け、商店街や花輪スキー場を会場に「全国ジュニアノルディックスキー大会 IN 鹿角」を開催しており、毎年延べ 600 名程の選手が参加しています。また、平成 20 年からは「全日本ローラースキー選手権大会」を花輪スキー場ローラースキーコースにて開催しており、両大会を通じて、青少年の憧れ、目標とするサマーノルディックスキーの拠点を形成し、スポーツの推進と交流人口の拡大、地域の活性化を目指しています。

しかし、参加選手が北東北を中心として偏っており、全国各地から集まる大会にはなっておりません。このため全国で実施している同様の大会等と連携を密にするなど、全国から人が集まる工夫が求められるところです。

また、平成 22 年からは、本市の優れたスポーツ環境を活かしたスポーツ合宿を奨励するため、宿泊費補助制度を設け、合宿の誘致活動を促進しています。

さらに、大会を「ささえる」審判等を養成する必要がある、新たな資格取得者の増加に向けた支援が必要です。

今後も、これらの事業の推進・拡大を進めていくとともに、全国規模の大会やイベント等の誘致に積極的に取り組み、本市と縁のあるトップアスリートと連携するなどし、スポーツのまちづくりを全国に発信していくことが必要といえます。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値 | 目標値 (H32 年度) |
|--------------------|------------|--------------|
| サマーノルディックスキー大会参加者数 | 409 人※1 | 430 人 |
| スポーツ合宿奨励補助金利用人数 | 3,231 人泊※2 | 3,600 人泊 |

※ 1 基準値は、平成 27 年度大会における参加者実人数

※ 2 基準値は、平成 26 年度における利用申請人数

(4) 子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実

《現状と課題》

平成 27 年度から実施している「アスリート鹿角キッズ」事業では、タレントの発掘と幼少期からのスポーツ能力の向上を目的に、スポーツトレーナー、スポーツ栄養士、理学療法士などの講師陣が、子どもとその親に対する、心身のバランスにも考慮したスポーツ講座を行っています。

また、浅利純子さんによる小中学校での陸上競技授業やトップアスリートによるジュニアクリニックは、競技力や意識を高めるとともに、スポーツ好きの子どもを増やしています。

平成 22 年からは、「楽天野球教室」を年 1 回開催しており、野球少年にとってはあこがれのプロ野球選手から直接指導が受けられる貴重な場となっています。

子どもたちが自ら、進んでスポーツに取り組もうとする動機づけとして、継続して実施していく必要があります。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値（H26年度） | 目標値（H32年度） |
|--|------------|------------|
| ジュニアクリニック・楽天野球教室等児童・生徒のスポーツ指導を目的とするイベント等への参加人数 | 1,255 人 | 1,400 人 |

※ 実績値は、平成 27 年度における①ジュニアクリニック（陸上 45 人・ローラースキー40 人・クロスカントリー35 人）
②楽天野球教室（72 人）③夢の教室（510 人）④市体協ジュニア教室 5 種目（553 人）の参加者数の合計。

《施策の展開》

「スキーのまち・駅伝のまち鹿角」の実現のために、スキー人口の底辺拡大を図るとともに、スキー・駅伝の競技力の向上を目指します。また、様々なスポーツイベントの開催や合宿誘致、トップアスリートとの連携による PR 活動の実施により、スポーツによる交流人口拡大を進めるとともに、子どもたちの夢と希望を育むため、子どもの無限の可能性を引き出す「アスリート鹿角キッズ」事業の展開とスポーツ選手とのふれあいの場の提供に努めます。

| |
|---|
| 2 スポーツによるまちづくりの推進 |
| (1) 「スキーのまち鹿角」の推進 |
| ①スキー人口の底辺拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるスキー授業の拡大 ・スキー授業への指導者の派遣 ・貸出スキー用具の整備 |
| ②スキー競技力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・小中高一貫指導体制確立に向けた調査研究 ・小中学生リフトシーズン券購入支援 ・スキー選手育成強化対策事業の推進 |
| ③スキーイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・岩泉杯、松橋杯争奪ジャンプ大会の充実 ・全国規模大会の誘致と開催 |
| (2) 「駅伝のまち鹿角」の推進 |
| ①陸上競技力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・小中高一貫指導体制確立に向けた調査研究 ・トップアスリート派遣事業の実施 ・駅伝選手育成強化対策事業の推進 |
| ②駅伝イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・浅利純子杯争奪鹿角駅伝の充実 ・十和田八幡平駅伝競走全国大会の充実 |
| (3) スポーツ拠点づくりの推進 |
| ①サマーノルディックスキーによるスポーツ拠点づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・サマーノルディックスキー全国大会の充実 ・全日本ローラースキー選手権大会の充実 |
| ②スキーのまち・駅伝のまち PR <ul style="list-style-type: none"> ・本市と縁のあるトップアスリートと連携した PR 活動の実施 ・関係部局、関係機関による PR 活動の推進 |

| | |
|--|---|
| | <p>③スポーツによる交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会の開催 ・スポーツ合宿の誘致、PR ・スポーツ合宿奨励事業の推進 ・スポーツ大会審判員等養成事業の推進 |
| | <p>(4) 子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実</p> |
| | <p>①子どもの可能性を引き出す「アスリート鹿角キッズ事業」の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツトレーナーによるフィジカルトレーニング、メンタルトレーニング ・保護者への栄養指導・メンタルケア指導 ・大会参加 等 |
| | <p>②スポーツ選手とのふれあいの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアクリニックの開催 ・楽天イーグルス野球教室の開催 ・ユメセン事業の開催 |

基本目標3 指導体制の確立と指導者の育成

スポーツ活動に取り組む市民のニーズに対応するために、関係団体と連携して、指導体制の確立を目指すとともに、スポーツ指導者の育成を図ります。

(1) スポーツ関係団体の組織強化と活動の充実

《現状と課題》

これまでの競技力向上策は、競争性を重視したものであり、本市においても、それぞれのチームがそれぞれの大会に向け練習に励んでいるといった状況が多くみられます。

しかし、このような方策は、競技者の育成において最も重要なジュニア期に、その時々が発達段階に応じた適切な指導や継続的な指導が行われにくく、運動障がいやバーンアウト（燃え尽き症候群）などの弊害を生み、若い競技者の能力が十分に伸ばされないといった指摘があります。

競技スポーツの向上を図るためには、一貫性のある指導体制による選手育成が必要であり、一貫した指導体制の確立のためには、体育団体相互の緊密な連絡協調を図る市体育協会の役割は大きく、その組織強化と活動の充実が課題となります。

スポーツ推進委員は、市体育協会や総合型地域スポーツクラブとも連携し、生涯スポーツの普及の役割が期待されています。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値（H27年度） | 目標値（H32年度） |
|-------------------------------------|------------|------------|
| 市体育協会の構成員数（正会員（個人）及び正会員（団体）構成員数の合計） | 3,378人 | 3,500人 |

※ 基準値は、平成27年度における人数（ただし、各地区体協の構成員数を除く）

(2) 指導者の育成と活用

《現状と課題》

スポーツの推進には、指導者が大きな役割を果たしています。競技スポーツはもちろんのこと、生涯スポーツにおいても、スポーツをする機会の少ない人や普段スポーツをしていない人の参加を促すためにも、指導者は必要です。

しかし、市民のスポーツ活動へのニーズが高度・多様化する中、これらのニーズに対応できるスポーツ指導者が不足している状況にあります。

特に、スポーツ少年団の社会体育化に向けた指導者の育成が急務であることから、秋田県スポーツ少年団との連携により、スポーツリーダー資格及びスポーツ少年団認定員資格が取得できる研修会を開催して、有資格者の増加に取り組んできました。

引き続きスポーツ少年団活動の充実と、市民のスポーツニーズに対応するため、スポーツ関係者のスポーツに対する意識改革と優れた指導者の育成が必要です。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値（H27年度） | 目標値（H32年度） |
|--|------------|------------|
| 市スポーツ少年団指導者登録人数 | 196人※1 | 220人 |
| 市体育協会または市スポーツ少年団本部構成員が参加した指導者向け研修会（審判員講習等を含む）の述べ人数 | 106人※2 | 200人 |

※ 1 平成27年度、市スポーツ少年団本部に登録している指導者の人数

2 市スポーツ少年団本部登録指導者が、平成27年度に受講した①指導者認定講習（48人）②その他指導者向け研修会（58人）を受講した延べ人数

《施策の展開》

市体育協会の組織強化と活動の充実を支援するとともに、スポーツ推進委員会活動の活性化を図ります。また、スポーツ少年団活動の充実に向けて優れた指導者を発掘・育成します。

さらに、生涯にわたりスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現のため、総合型スポーツクラブの活動と連携し、指導者の発掘・育成に努めます。

3 指導体制の確立と指導者の育成

(1) スポーツ関係団体の組織強化と活動の充実

① 体育協会の組織強化と活動の充実

- ・スポーツ少年団社会体育化に向けたスポーツ少年団本部の活動支援
- ・体育協会の組織機能の検討
- ・一貫指導体制の調査研究
- ・独自事業の開催

② スポーツ推進委員会活動の活性化

- ・総合型地域スポーツクラブ活動の推進・連携
- ・生涯スポーツ活動の普及推進

(2) 指導者の育成と活用

① 指導者研修会の開催

- ・スポーツ関係団体による指導者の発掘及び育成
- ・指導者資質向上のための各種指導者養成研修会の開催
- ・指導者養成研修会参加に対する支援

基本目標 4 スポーツ施設の利用促進と整備

生涯スポーツの推進及び競技力向上のために、市民が気軽に利用できる体育施設の充実と整備を進めます。また、スポーツ少年団活動を充実させ、学校と地域社会が連携したスポーツ環境づくりを推進することにより、子どもたちのスポーツ活動の充実を図ります。

(1) スポーツ施設の利用促進

《現状と課題》

本市には、東山スポーツレクリエーションエリアをはじめとして、各市民センターや地区体育館、土床体育館、屋外運動広場など、市民がスポーツ活動を行うための施設が各地区にあります。しかしながら、利用時間帯の重複、特定施設への偏りなど、全ての施設が効率的、効果的に利用されているとはいえない状況にあり、さらなる利用促進を図っていく必要があります。

また、スポーツ少年団の活動の場として、学校体育施設の使用等について早急に検討する必要があります。

(2) スポーツ施設の整備・充実

《現状と課題》

各スポーツ施設が有する機能について、情報提供しつつ市民ニーズに対応した施設・設備の整備を行うほか、老朽化した施設の計画的な整備等も必要です。

《成果指標と目標値》

| 成 果 指 標 | 基準値（H26 年度） | 目標値（H32 年度） |
|------------|-------------|-------------|
| スポーツ施設利用者数 | 258,380 人 | 280,000 人 |

※ 実績値は、平成 26 年度におけるスポーツ振興課所管全施設、総合運動公園及び市民センター所管のスポーツ施設（十和田体育館・大湯体育館・大湯運動広場・かなやまアリーナ・八幡平体育館・湯瀬体育館・八幡平運動広場）の利用者数の合計（引用「事務報告」）

《施策の展開》

市民が気軽に利用できる体育施設の充実を図るため、市内スポーツ施設の有効活用を図るとともに、用具の整備・充実を図ります。また、老朽化した施設の保全・補修等、施設の適正な維持管理に努めつつ、市民ニーズも考慮しながら施設の統廃合も検討します。

| | |
|---|------------------------------|
| 4 | スポーツ施設の利用促進と整備 |
| | (1) スポーツ施設の利用促進 |
| | ①社会体育施設の有効活用 |
| | ・施設管理者との連携、施設管理者間の連携による利活用促進 |
| | ・各種大会の誘致（スポーツ拠点づくりの推進） |
| | ・施設利用の情報提供 |
| | ②学校体育施設の有効活用 |
| | ・スポーツ少年団の社会体育化に対応した学校体育施設の改修 |
| | ・学校体育施設の活用促進 |
| | ・学校再編に伴う学校体育施設活用方法の検討 |

(2) スポーツ施設の整備・充実

①施設機能の明確化と情報発信

- ・指定管理者等施設管理者と連携した情報発信
- ・施設機能の HP 等での紹介

②スポーツ施設における設備の充実

- ・既存施設の設備充実と活用

③既存施設の機能向上と老朽化施設への計画的対応

- ・既存施設の状況調査・保全・補修
- ・施設整備計画の策定・既存施設整備促進
- ・市民ニーズを見極めた施設の統廃合

成果指標と目標値一覧

| 施策 | 成 果 指 標 | 基準値 (H26・H27) | 目標値 (H32) |
|-------|--|------------------|--------------|
| 1-(1) | 週 1 回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 | 58.1% | 65.0% |
| 1-(2) | チャレンジデー参加率 | 68% | 75% |
| 1-(3) | スポーツボランティアの登録者数 | — | 50 人 |
| 2-(1) | 共通シーズン券購入補助制度利用人数 | 64 人 | 80 人 |
| 2-(2) | 浅利純子杯駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 | 102 チーム | 120 チーム |
| 2-(3) | サマーノルディックスキー大会参加者数 | 409 人 | 430 人 |
| | スポーツ合宿奨励補助金利用人数 | 3,231 人泊 | 3,600 人泊 |
| 2-(4) | ジュニアクリニック・楽天野球教室等児童・生徒のスポーツ指導を目的とするイベント等への参加人数 | 1,255 人 | 1,400 人 |
| 3-(1) | 市体育協会の構成員数（正会員（個人）及び正会員（団体）構成員数の合計） | 3,378 人 | 3,500 人 |
| 3-(2) | 市スポーツ少年団指導者登録人数 | 196 人 | 220 人 |
| | 市体育協会または市スポーツ少年団本部構成員が参加した指導者向け研修会（審判員講習等を含む）の述べ人数 | 106 人 | 200 人 |
| 4-(1) | スポーツ施設利用者数 | 258,380 人 | 280,000 人 |
| 4-(2) | | | |